

FUJITSU Cloud Service for OSS IaaSにおける制限事項・注意事項となります。各機能の詳細につきましては、機能説明書を参照ください。

1. 制限事項

No	カテゴリ	機能	内容	解除時期	備考
1-1	コンピュータ	仮想サーバ	以下のOSにおいて、仮想サーバのシステムディスクは、任意のサイズを指定することができません。提供されているサイズでご利用ください。 Red Hat Enterprise Linux : 40GB なお、CentOSにつきましては、30GB以上、Ubuntu Serverにつきましては、3GB以上、Windows Serverにつきましては80GB以上の任意のサイズを指定することが可能です。	-	2017/10/2 制限内容修正
1-10	データベース	データベース	データベースはFQDNでアクセスしてください。	-	
1-11	データベース	データベース	リードレプリカ機能がご利用できません。	2018年12月予定	
1-13	テンプレート	オーケストレーション機能	仮想サーバ配備失敗時のロールバックでポートが削除されない場合があります。	-	
1-18	プロジェクト管理	プロジェクト削除	作成したプロジェクトを削除することはできません。	-	
1-28	データベース	データベース	自動メンテナンス設定で指定した時間にパッチが適用された場合、約10分間のSQLエラーとなる時間帯が発生します。	-	
1-35	課金	ネットワーク	SSL-VPNサービスは課金対象外です。	-	
1-53	課金	ネットワーク	IPsecVPNサービスは制限解除まで課金対象外となります。	-	
1-55	データベース	データベース	データベース仮想サーバの冗長構成の変更(シングル→冗長化、冗長化→シングル)は実行できません。シングル構成を冗長構成に変更した場合、元のデータをバックアップ後、冗長構成のデータベース仮想サーバを新規に作成し、バックアップからデータをリストアしてください。	-	2016/7/7 新規追加
1-56	データベース	データベース	冗長構成のデータベース仮想サーバの名前(name)を変更しないでください。名前が変更された場合、データベース仮想サーバのステータスがfailedとなり、バックアップデータからのリカバリが必要となります。名前を変更したい場合、希望する名前データベース仮想サーバを新規に作成し、バックアップからデータをリストアしてください。	-	2016/7/7 新規追加
1-57	データベース	データベース	冗長構成のデータベース仮想サーバにおいて、構成変更APIは主系運用に戻した状態で実施してください。従系運用時に構成変更APIが実施された場合、データベース仮想サーバのステータスがerrorとなり、バックアップデータからのリカバリが必要となります。	-	2016/7/7 新規追加
1-58	データベース	データベース	フェイルオーバーを設定("failover": true)してデータベース仮想サーバを再起動する場合は、必ずデータベース仮想サーバの起動中に実行してください。停止中に実行された場合、データベース仮想サーバはSQLを受け付けなくなり、バックアップデータからのリカバリが必要となります。	-	2016/7/7 新規追加
1-59	データベース	データベース	冗長構成のデータベース仮想サーバのパラメーター変更時は再起動が必要ですが、この際、フェイルオーバーを設定("failover": true)して再起動をしないでください。実行された場合、設定変更が反映されません。	-	2016/7/7 新規追加
1-60	データベース	データベース	データベース仮想サーバのフレーバーを変更することはできません。フレーバーを変更したい場合、希望するフレーバーでデータベース仮想サーバを新規に作成し、バックアップからデータをリストアしてください。	-	2016/7/7 新規追加
1-61	データベース	データベース	データベース仮想サーバの削除処理中に該当のデータベース仮想サーバに対する参照APIを実施した場合、サーバ異常(HTTP 500)のエラーが返却される場合があります。しばらく時間を空けてからAPIを再実施してください。	-	2016/7/7 新規追加
1-62	データベース	データベース	スタックの削除中に該当のデータベース仮想サーバに対する参照APIを実施し、サーバ異常エラー(HTTP 500)が返却された場合、スタックの状態がDELETE_FAILEDになる場合があります。しばらく時間を空けてからスタックの削除を再実施してください。	-	2016/7/7 新規追加
1-63	データベース	データベース	フェイルオーバー時の通知を除き、イベント監視による通知機能はご利用できません。なお、フェイルオーバー時の通知にはFailoverおよびRecoveryの通知設定が必要です。	-	2016/7/7 新規追加
1-65	データベース	データベース	DBパラメーターの制限は以下になります。 ・max_connectionsまたはmax_prepared_transactionsを現在の設定値より小さい値に設定しないでください。現在の設定値より小さい値を設定して再起動すると、データベース仮想サーバの状態がDegeneratedとなり、バックアップデータからのリカバリが必要となります。 ・resetAllparameters=trueによる設定値のリセットを行わないでください。	-	2017/11/21 制限内容修正
1-66	データベース	データベース	再起動が必要なパラメーターを含むパラメーターグループ変更後は、データベース仮想サーバのステータスがRestart_Requiredになりますが、データベース仮想サーバの再起動が必要です。再起動が行われない場合、変更は反映されません。	-	2018/5/24 制限内容修正
1-67	データベース	データベース	パラメーターグループの参照APIでは利用者が変更したパラメーター値は表示されますが、デフォルト値は表示されません。デフォルト値を確認する場合、SQL文「show all;」を発行して確認してください。	-	2016/7/7 新規追加
1-68	データベース	データベース	データベースローグー覧取得APIにて取得するログファイル名は100件以上表示できません。72時間の間に出力されるログファイル数が100件以下になるようにログローテーションを設定してください。	-	2017/2/13 制限内容修正
1-69	データベース	データベース	データベースローグー覧取得APIのパラメーターには、markerをご利用できません。	-	2017/2/13 制限内容修正

1-76	富士通製ソフトウェア	イメージ	以下の富士通製ソフトウェアのオートスケール機能はご利用できません。 Interstage Application Server Systemwalker Centric Manager Systemwalker Operation Manager	-	2016/8/1 新規追加
1-77	ストレージ	ブロックストレージ	スタンダードサービスのWindows 仮想サーバにストレージを新規追加または削除する場合、下記のSANポリシーの変更を実施して下さい。実施されない場合、仮想サーバの再起動後にストレージが正常に認識されない場合がございます。 ・SAN ポリシーの設定方法 1)管理者権限でコマンドプロンプトを起動する 2)「DISKPART」を入力してEnterキーを押下する 3)「san」を入力してEnterキーを押下する：「SAN ポリシー：オフライン共有」が出力されることを確認する 4)「san_policy=OnlineAll」を入力してEnterキーを押下する 5)「san」を入力してEnterキーを押下する：「SAN ポリシー：すべてオンライン」に変更されたことを確認する 6)「exit」を入力してEnterキーを押下し、DISKPARTを終了する 7)コマンドプロンプトを終了する	-	2017/6/1 制限内容修正
1-80	課金	課金管理	暫定課金情報の取得API(GET /v1/charges/transition/YYYY/MM)にて、取得した暫定課金のcollected at時刻に実際の利用年月日の00:00:00が設定されています。 正しい暫定課金情報を取得する場合は、APIの対象日時指定を1日分少なく指定してください。	-	2016/12/22 新規追加
1-86	データベース	データベース	以下の性能監視の情報は取得できません。 ・fcx.database.disk.bin_log.size ・fcx.database.replica.lag ・fcx.database.swap.size ・fcx.database.disk.read.requests.rate ・fcx.database.disk.write.requests.rate ・fcx.database.disk.read.latency ・fcx.database.disk.write.latency ・fcx.database.disk.read.bytes.rate ・fcx.database.disk.write.bytes.rate	-	2017/2/13 新規追加
1-95	ネットワーク	DNSサービス	東日本リージョン2/UKリージョン/フィンランドリージョン/ドイツリージョン/スペインリージョン/USリージョンにおいて、PTRレコードは作成、変更、削除できません。	-	2018/6/1 制限内容修正
1-101	課金	ネットワーク	ネットワークコネクターは制限解除まで課金対象外となります。	-	2017/9/1 新規追加
1-102	コンピュータ	イメージ	東日本リージョン1において Windows Server 2016は、ハイスピードCPUおよび専有仮想サーバではご利用できません。	-	2017/12/4 新規追加
1-103	ネットワーク	IPsecVPN	東日本リージョン2/UKリージョン/フィンランドリージョン/ドイツリージョン/スペインリージョン/USリージョンにおいて、ご利用者様の環境条件により、IPsecVPN通信 (IKE SA もしくは IPsec SA) が確立できないことがあります。 <環境条件> IPsec VPNの接続先が、FUJITSU Cloud Serviceから提供している ipsec-site-connection ではなく、ご利用者様が準備した機器やアプリケーションの場合 <回避方法①>ご利用者様環境からFUJITSU Cloud Service 環境へIPsecVPN 通信をする場合 FUJITSU Cloud Service のIPsecVPNがレスポンス動作となるように接続先環境を設定してください。 <回避方法②>FUJITSU Cloud Service 環境からご利用者様環境へIPsecVPN 通信をする場合 ご利用者様が準備した機器やアプリケーションの前端に設置しているfirewallに対し、VPN Serviceを設定している仮想routerのgateway ipからのudp 4500の通信を許可してください。 なおIPsecVPN通信を行う前提として、ご利用者様が準備した機器やアプリケーションにおいて、送信元IPが変更されてもIKE SAおよびIPsec SAが確立できる仕様である必要があります。	-	2018/2/1 新規追加
1-104	コンピュータ	オートフェイルオーバー	東日本リージョン2/UKリージョン/フィンランドリージョン/ドイツリージョン/スペインリージョン/USリージョンにおいて、仮想サーバ名に2バイト文字が使用されている仮想サーバはオートフェイルオーバーが動作いたしません。1バイト文字を使用してください。	-	2018/2/1 新規追加
1-109	データベース	データベース	DB/パラメーターにはデータベース仮想サーバの再起動を必要とするものがあります。それらのパラメーターを変更する際には、「即時適用(applyImmediately : true)」を指定するか、変更操作後にデータベース仮想サーバを再起動してください。 再起動が行われない場合、設定は反映されません。 設定値を元の値に戻す場合にも、必ず再起動を実施して一度設定が反映された後に実施してください。	-	2018/5/24 新規追加
1-110	データベース	データベース	冗長化構成のデータベース仮想サーバにおいて、データベースエンジン名に「symfware」を指定し、パラメーター値の変更APIで「ssl」パラメーターを「on」に設定する場合は、「ssl_renegotiation_limit」パラメーターを「0」に設定してください。	-	2018/5/24 新規追加

2. 注意事項

No	カテゴリ	機能	内容	解除時期	備考
2-1	コンピュータ	仮想サーバ	CentOSおよびRed Hat Enterprise Linux仮想サーバにおいて、ホスト名に特定の文字列（".fcxlocal"）が付与されます。	-	
2-2	コンピュータ	仮想サーバ	スナップショットで取得したデータが残った状態で、取得元の仮想サーバを削除することはできません。仮想サーバを削除する際は、事前に取得したスナップショットを削除してください。	-	
2-5	コンピュータ	仮想サーバ	CentOS/Red Hat Enterprise Linux/Ubuntu/SUSE Linux Enterprise Serverを利用する仮想サーバのシングルユーザモードはサポートしません。	-	2017/1/23 SUSE Linux Enterprise Serverを追加
2-11	コンピュータ	オートスケール	以下の条件の場合、システムへ設定されるユーザ名が「cloud-user」になります。 - 配備するシステムがCentOSまたはRed Hat Enterprise Linuxの場合、かつ - AutoscaleのHeatテンプレートを利用しスタックから新規にシステムを配備した場合	-	
2-12	コンピュータ	オートスケール	オートスケールにおいて、テンプレートで作成したスタックを更新すると、すでに配備されているリソースが削除され、再構築されます。	-	
2-14	ストレージ	ブロックストレージ	アタッチされているブロックストレージを拡張することはできません。	-	
2-15	ストレージ	ブロックストレージ	CentOS/Red Hat Enterprise Linux/SUSE Linux Enterprise Serverを利用している仮想サーバにおいて、アタッチするブロックストレージのデバイス名を固定にする場合は、by-idをご利用ください。	-	2017/1/23 SUSE Linux Enterprise Serverを追加
2-16	ストレージ	ブロックストレージ	仮想サーバの起動中に、APIおよびIaaSポータルからの操作によりアタッチされたブロックストレージをデタッチすることが可能です。ご利用中に誤ってブロックストレージを削除してしまわないよう、ご注意ください。	-	
2-19	ネットワーク	DNSサービス	ロードバランサーを配備すると、ロードバランサーに付与されたFQDN名がDNSサービスに自動登録されます。なお、仮想サーバにグローバルIPアドレスを付与した際は、利用者が任意のFQDN名をDNSサービスに登録してください。	-	
2-20	ネットワーク	ロードバランサー	ロードバランサーのCookieExpirationPeriodは、初回アクセスからの経過時間となります。最終アクセスからの経過時間でタイムアウトさせるためには、以下の設定が必要となります。 (1)ロードバランサーの定義でCookieの設定が有効になっていること。 (2)CookieMax-Age属性に対応しているブラウザ(IE9以降またはChrome,firefox等)でアクセスしており、且つブラウザでCookieが有効であること。	-	
2-21	ネットワーク	ネットワークコネクタ	ネットワークコネクタは1階層ネットワークのみ利用可能です。	-	
2-23	データベース	データベース	データベース仮想サーバの作成、容量変更などのAPIについて、ブロックストレージのタイプは「M1」を必ず指定してください。	-	
2-24	テンプレート	オーケストレーション機能	オーケストレーション機能で仮想サーバ配備する場合、増設ディスクの"source_type"パラメーターに"blank"を指定することはできません。増設ディスクの"source_type"パラメーターには"image"を指定してください。	-	
2-25	テンプレート	オーケストレーション機能	オーケストレーション機能において、スタック外に作成したロードバランサーをテンプレート内で使用することはできません。	-	
2-28	API	API	API実行時エラー(5xx)発生時はリトライが必要ですが、短時間に連続してリトライを実行しないでください。	-	
2-29	コンピュータ	ロードバランサー	ロードバランサーのIPアドレスは変更される可能性があるため、付与されたFQDNでアクセスしてください。	-	
2-31	テンプレート	オーケストレーション機能	パラメーターを指定せずにスタックを更新した場合、スタック作成時の値に戻ります。変更しないパラメーターであっても、同値を指定してスタックを更新してください。	-	
2-32	テンプレート	オーケストレーション機能	スタック内のリソースの直接変更は行わないでください。変更が必要な場合はスタックの更新を実施してください。	-	
2-33	コンピュータ	仮想サーバ	Red Hat Enterprise Linux/CentOS/Ubuntu/SUSE Linux Enterprise ServerのLVM(logical volume manager)はシステムストレージにはご利用できません。	-	2017/1/23 SUSE Linux Enterprise Serverを追加
2-34	データベース	データベース	リストアによってFQDNおよびIPアドレスが変更されます。	-	
2-35	データベース	データベース	ポイントイン・タイムリカバリーによる復旧を実施する際に、指定した時点以降の更新量が16MBに満たない場合はリカバリーが行われません。ポイントイン・タイムリカバリー前に「select pg_switch_xlog();」SQLを実施することでリカバリーが可能になります。	-	
2-36	データベース	データベース	データベースは20%程度の余裕を持った容量で運用してください。ディスク容量が枯渇した場合、ステータスがErrorになり、リストアまたはデータベースの再作成が必要となります。	-	
2-37	IaaS サービスポータル	ポート	以下のポートはポータル上でIPアドレスが変更できてしまいますが、変更すると通信ができなくなりますので変更しないでください。 "network:router_interface" "network:dhcp"	-	
2-39	仮想サーバインポート	仮想サーバインポート	プライベートイメージから仮想サーバを初めて作成する際、エラーになる場合があります。その場合、お手数ですが仮想サーバの作成を再度実施してください。	-	2017/12/4 注意内容変更

2-41	コンピュータ	仮想サーバ	仮想サーバはキーペア等のメタデータをFUJITSU Cloud Service 内部の特別なサーバから取得します。仮想サーバから仮想ルータを経由して「http://169.254.169.254」との通信ができるよう、セキュリティグループとルーティン <small>（おまかせ）</small> グループを設定してください。	-	
2-42	データベース	データベース	データベース仮想サーバに割り当てたセキュリティグループには、そのセキュリティグループ自身に対するデータベース用ポートの送受信を許可する設定を含めてください。	-	
2-44	IaaS サービスポータル	キーペア	キーペア名に空白を含むキーペアを作成可能ですが、当該キーペアを使用して仮想サーバを作成した場合、ログインできない仮想サーバが作成されます。キーペア名には空白を含ませないでください。	-	
2-45	課金	仮想サーバ	仮想サーバを停止する場合、時間単位の整数に切り上げるため 1 時間分利用料金が多くなることがあります。	-	
2-46	IaaS サービスポータル	仮想サーバ	ポータルおよびAPIでのWindows仮想サーバのプライベートIPアドレスの変更はできません。Windows仮想サーバに任意のIPアドレスを設定したい場合、APIからポートを指定した仮想サーバの作成を実施してください。	-	
2-47	ネットワーク	仮想ネットワーク	一本のネットワークに対して外部ネットワークに接続された仮想ルータを複数接続しないでください。	-	
2-48	コンピュータ	ロードバランサー	ロードバランサは1つのサブネットに対してグレードごとに以下の個数のIPアドレスが必要です。必要な個数のIPアドレスを確保できる構成にしてください。 グレードごとに必要なIPアドレス数： Standard：4個、Middle：8個、High：12個	-	
2-49	データベース	データベース	1つのデータベースサービスごとに1つのサブネットに対してシングル構成の場合は5個、冗長化構成の場合は6個のIPアドレスを確保できる構成にしてください。 また、AZ間冗長化構成の場合は、主系データベースを配備したAZ側のサブネットから5個、従系データベースを配備したAZ側のサブネットから5個のIPアドレスを確保できる構成にしてください。	-	2017/3/31 詳細を修正
2-52	ロール管理	権限	全体管理者ロール(cpf_admin)の権限をユーザに直接設定することはできません。domainmanager グループへのユーザを追加することで全体管理者ロールを設定可能です。	-	
2-53	プロジェクト管理	プロジェクト無効化	サービスポータルまたはAPIからプロジェクトを無効化された場合、当該プロジェクトに対するポータルおよびAPI操作ができなくなります。仮想サーバ等のリソースは返却されません。また、リソースに対する課金も継続して行われるため注意してください。	-	2016/06/01 新規追加
2-54	プロジェクト管理	プロジェクト無効化	ドメイン内の全てのプロジェクトが無効化された場合、ドメインに属する全ユーザはポータルおよびAPI操作ができなくなり、ヘルプデスクでの対応が必要となります。 最低 1 つは有効なプロジェクトを残してください。	-	2016/06/01 新規追加
2-56	ロケーションサービス	利用者管理	「リージョン開始」設定後に作成されたユーザでは、東日本リージョン1以外のリージョンを選択したトークンの取得、およびIaaSポータルへのログインができません。以下の回避策を実施することでご利用可能になります。 ・APIから実施する場合 全体管理者ロールを持つユーザで対象リージョンに対して、対象ユーザと対象ユーザのデフォルトプロジェクトに、memberロールを付与するよう、以下のAPIを実行してください。 APIの例：PUT /v3/projects/{projectid}/users/{userid}/roles/{role_id} ・IaaSポータルから実施する場合 1) 契約者、または全体管理者ロールを持つユーザで対象のリージョンのIaaSポータルにログインする 2) 左メニューの「管理」→「ユーザー」をクリックし、ユーザ管理画面を開く 3) 対象ユーザの「Action」から「ロール割当変更」をクリックし、ユーザーロール割当変更画面を開く 4) (本操作は2016年4月7日以前の契約者でのみ必要です。左記に該当しない方は不要です)「プロジェクト」タブをクリックし、デフォルトプロジェクトを選択する 5) 「リージョナル操作」(画面下段)から、プリセットロールの「メンバーロール」を選択し、「+>」をクリックする 6) 「割当変更」をクリックする	-	2016/8/1 新規追加
2-57	ネットワーク	ネットワークコネクタ	専有物理サーバサービスに利用するネットワークコネクタは、他サービスと併用せず、使用してください。	-	2017/1/10 一部注意内容変更
2-58	コンピュータ	仮想サーバ	ポータル・API操作での仮想サーバの停止は、強制シャットダウンとなります。安全にシャットダウンを行う場合は、OS上からシャットダウンを実施してください。	-	2016/12/22 新規追加
2-59	ネットワーク	仮想ネットワーク	仮想サーバの作成時に同一セグメントに対して、2つ以上のポートをアタッチしないでください。	-	2017/2/13 注意内容変更
2-63	ネットワーク	仮想ネットワーク	SSL-VPN、IPsecVPNに利用されるVPNServiceが設定された仮想ルータが接続しているサブネット上へ、別の仮想ルータをアタッチするとデタッチすることができなくなります。VPNService設定を解除した後に仮想ルータをデタッチしてください。	-	2017/1/23 新規追加
2-65	プライベート接続	構内接続 ダイレクトポート接続	構内接続とダイレクトポート接続に利用するネットワークコネクタは併用しないでください。	-	2017/2/13 新規追加

2-68	コンピュータストレージ	スナップショット	<p>Windows OSの仮想サーバにおいて、ActiveDirectoryドメインコントローラ(以下DC)のシステムストレージのバックアップ・リストアは、スナップショット機能とWindows Serverバックアップ機能を利用することで実現が可能です。※事前に各DCに、OS上で「役割と機能の追加ウィザード」から「Windows Server バックアップ」機能を追加しておく必要があります。</p> <p>・バックアップの手順 1)DC を停止して仮想サーバのシステムボリュームのスナップショットを取得する。 ※複数台の場合、DC 1台ずつ順番に実施して問題ありません。 2)スナップショット取得後、DC を起動する。 3)「Windows Server バックアップ」機能で【システム状態のバックアップ】を取得する。</p> <p>・リストアの手順(該当DCのみ復旧させる場合) 1)リストア対象のDCをスナップショットから戻す。 2)ディレクトリ サービス復元モードで起動する。 FUJITSU Cloud Service では起動時にF8キーを押さないため、管理者権限で以下のコマンドを実行し、再起動する。「bcdedit /set safeboot dsrepair」 3)「Windows Server バックアップ」機能でシステム状態のリストアを実施する。</p> <p>■詳細な手順につきましては、ヘルプデスクまでお問い合わせください。</p>	-	2017/6/1 新規追加
2-69	コンピュータ	OS提供サービス	Windows OSの仮想サーバにおいて、DVDからの起動ができないため、Windows Server Backupによるシステムリストア(ベアメタル回復)機能は使用できません。	-	2017/6/1 新規追加
2-70	コンピュータ	OS提供サービス	Windows OSの仮想サーバに対して、NMI(Non-maskable Interrupt)は実行できません。	-	2017/6/1 新規追加
2-71	コンピュータ	ソフトウェア提供サービス	本サービスにて提供しているMicrosoft SQL Serverはライセンス条件によりインストーラ等の提供ができません。そのため、インストール媒体を利用したインスタンスの追加/再構築、インスタンス名の変更などの操作はできません。別途お客様にてマイクロソフトのライセンスモビリティをご利用いただくことで対応可能となります。	-	2017/6/16 新規追加
2-72	コンピュータ	OS提供サービス	Windows Server OSにおいて、以下のサーバの役割はサポートされません。 ・Active Directory Rights Management サービス ・DHCPサーバ ・Hyper-V ・Windows 展開サービス ・リモート アクセス -DirectAccess および VPN(RAS) -ルーティング	-	2017/7/3 新規追加
2-73	コンピュータ	OS提供サービス	Windows Server OSにおいて、以下の機能はサポートされません。 ・BitLocker ドライブ暗号化 ・iSNSサーバ サービス ・ネットワーク負荷分散 ・ピア名解決プロトコル ・マルチパス I/O ・SNMP サービス ・WINS サービス ・ワイヤレス LAN サービス	-	2017/7/3 新規追加
2-76	ネットワーク	仮想ネットワーク	FUJITSU Cloud Service のネットワーク環境仕様として、ファイアーウォール、ロードバランサー等の通信に関するログの提供は行っておりません。	-	2017/12/22 新規追加
2-77	契約管理	契約管理	パスワード有効期限切れ状態の契約者ユーザーに対して、そのユーザーの言語設定が英語にもかかわらず、日本語のメールが送信されることがあります。	-	2018/2/15 新規追加
2-80	ネットワーク	仮想ネットワーク	ネットワークセグメント、およびSSL-VPN接続のクライアントアドレスプールに「192.168.122.0/24」をご利用できません。	-	2018/3/1 新規追加
2-81	データベース	データベース	データベースサービスの自動メンテナンスは行われません。	-	2018/5/24 制限事項「1-52」から注意事項「2-81」に変更となります。

※上記内容は予告なく変更される可能性があります。